



西王母

青龍

【展示品】 画像鏡 (図録No.151)

後漢(2世紀) 径21.6cm 1,415g

このひょうきんな「とら」は白虎です。白虎は中国古代の想像上の動物で、四方を守る神獣として、前漢時代後半頃(約2100年前)に鏡の図像として現れ、玄武(北)、青龍(東)、朱雀(南)とともに四神の一つとして、西に配置されました。

獣像

当館所蔵の「鍍金方格規矩四神鏡」(新/約2000年前)には、「左龍(青龍)と右虎(白虎)は悪霊など不祥なものを退け、朱雀と玄武は南北にあって陰陽を調和する」という意味の銘文が鑄出されています。

その後の後漢時代中頃(約1950年前)には、玄武と朱雀の代わりに、西王母と東王父という神仙が描かれた鏡が現れます。本鏡は東王父の場所に獣像が置かれており、画像鏡としては、西王母単独の珍しい鏡です。



白虎



西王母 せいおうぼ

獣像

青龍

西王母

- ・戦国時代(紀元前453年~紀元前221年)に成立した『山海経』にはじめて現れました。「西方の玉山や崑崙山に住み、姿は人のようだが、豹の尾と虎の歯が生えている」と表されています。
- ・前漢時代末(2000年前頃)、美しい女性の形で図像が出現し、不老不死の神仙として爆発的な信仰を集めるようになりました。

次回開催の企画展

令和4年3月19日(土)~9月11日(日)

「漢王朝のやきもの」

漢代(紀元前202年~紀元後220年)につくられた様々なやきものを紹介します。



古代鏡展示館

(兵庫県立考古博物館加西分館)

加西市豊倉町飯森 1282-1

(県立フラワーセンター内)

電話 0790-47-2212

えと 干支 寅

とら/イン

令和4年1月2日(日)~3月13日(日)

令和4年の干支は「みずのえとら」

古代鏡展示館では、例年お正月から3月中頃まで、所蔵する古代鏡の中からその年の干支の動物が描かれた鏡をご紹介します。

今回は少しひょうきんな「とら(白虎)」が描かれた鏡一面をご覧ください。



古代鏡展示館

兵庫県立考古博物館 加西分館

Hyogo Prefectural Museum of Ancient Bronze Mirrors

加西市豊倉町飯森 1282-1 (県立フラワーセンター内) 0790-47-2212

1 「えと」って何？

私たちは「えと」と聞くと、「ね、うし、とら、……………」といった十二の動物をイメージしますが、元々の意味は違いました。

「えと」は漢字では「干支」と書き、「かんし」とも読みます。「十干十二支（じっかんじゅうにし）」を省略した言葉です。

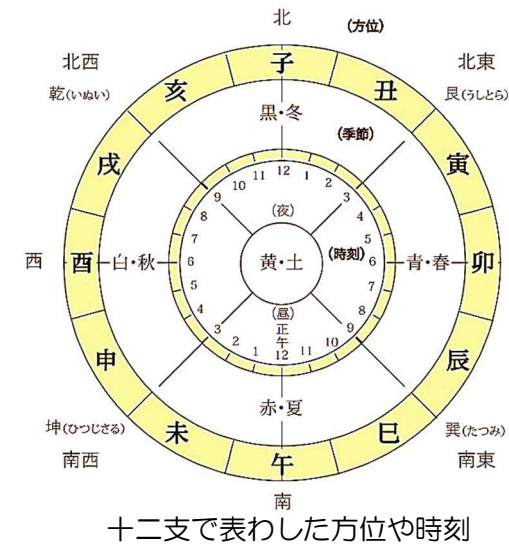
十干：甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸 の10種
 十二支：子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥 の12種

この十干と十二支を順番に組み合わせていくと、60とおりの組み合わせができます。古代中国の商（殷）の時代（約3,500年前）には、この十干十二支を使って60日で一巡する暦を表しており、後に方位や年を表すようになります。

干支は60年で一巡する = 60年で暦が元に還る = 「還暦」

この干支を使って年を表現する方法は、日本には日本書紀の記載や出土品などから古墳時代（約1,500年前）頃には伝わったと考えられています。

2 「十二支」が動物に（十二生肖）



十二支の「子・丑・寅・・・」は、本来「日」や「方位」を示すもので、動物を意味するものではありませんでした。

それが、遅くとも秦の時代（約2,200年前）になると、なぜか動物が割り当てられるようになり（※1）、後漢の時代（約1,900年前）には現在の動物にまとまってきます（※2）。

動物を割り当てたこの十二支は「十二生肖」と呼ばれ、今日私たちが「えと」とよぶものと同じものです。

十二支	十二生肖
子	鼠 ねずみ
丑	牛 うし
寅	虎 とら
卯	兎 うさぎ
辰	龍 りゅう
巳	蛇へび
午	馬 うま
未	羊 ひつじ
申	猿 さる
酉	鳥 とり
戌	犬 いぬ
亥	猪(豚) いのしし(ぶた)

※1 湖北省雲夢県睡虎地十一号秦墓『日書』
 ※2 王允『論衡』物勢篇

干支の順番表

十干	十二支 (1巡目)												十二支 (2巡目)												十二支 (3巡目)												十二支 (4巡目)												十二支 (5巡目)																												
	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥																	
甲	1	こうし/きのえね										11	こうじゅつ/きのえいぬ											21	こうしん/きのえさる												31	こうご/きのえうま												41	こうしん/きのえたつ												51	こういん/きのえとら													
乙	2	いっちゅう/きのとうし										12	いつがい/きのとひ												22	いつゆう/きのととり												32	いつび/きのとひつじ												42	いっし/きのとみ												52	いつぼう/きのとう												
丙	3	へいいん/ひのえとら										13	へいし/ひのえね												23	へいじゅつ/ひのえいぬ												33	へいしん/ひのえさる												43	へいご/ひのえうま												53	へいしん/ひのえたつ												
丁	4	ていぼう/ひのとう										14	ていちゅう/ひのとうし												24	ていがい/ひのとひ												34	ていゆう/ひのととり												44	ていび/ひのとひつじ												54	ていし/ひのとみ												
戊	5	ぼしん/つちのえたつ										15	ぼいん/つちのえとら												25	ぼし/つちのえね												35	ぼじゅつ/つちのえいぬ												45	ぼしん/つちのえさる												55	ぼご/つちのえうま												
己	6	きし/つちのとみ										16	きぼう/つちのとう												26	きちゅう/つちのとうし												36	きがい/つちのとひ												46	きゆう/つちのととり												56	きび/つちのとひつじ												
庚	7	こうご/かのえうま										17	こうしん/かのえたつ												27	こういん/かのえとら												37	こうし/かのえね												47	こうじゅつ/かのえいぬ												57	こうしん/かのえさる												
辛	8	しんび/かのとひつじ										18	しんし/かのとみ												28	しんぼう/かのと												38	しんちゅう/かのと												48	しんがい/かのとひ												58	しんゆう/かのととり												
壬	9	じんしん/みずのえさる										19	じんご/みずのえうま												29	じんしん/みずのえたつ												39	じんいん/みずのえとら												49	じんし/みずのえね												59	じんじゅつ/みずのえいぬ												
癸	10	きゆう/みずのととり										20	きび/みずのとひつじ												30	きし/みずのとみ												40	きぼう/みずのとう												50	きちゅう/みずのとうし												60	きがい/みずのとい												

3 日本での干支

日本ではその後「陰陽五行」という考え方にに基づき、十干を陰陽（※3）と五行（※4）に当てはめました。

		五行				
		木	火	土	金	水
陰陽	兄	甲	丙	戊	庚	壬
	弟	乙	丁	己	辛	癸
		きのえ	ひのえ	つちのえ	かのえ	みずのえ
		きのと	ひのと	つちのと	かのと	みずのと

※3 森羅万象は全て「陽」と「陰」の2つの状態に分けられるとする考え方
 ※4 この世の事柄は5つの要素の変化により生じるとする考え方
 「陰陽」の陽を「兄」、陰を「弟」と表わし、それぞれ「兄（え）」「弟（と）」と呼びました。
 「えと」という呼び方はここからきています。

つまり今日私たちがイメージする「えと/干支」は、

- 漢字は「十干十二支」の省略
- 内容は十二支（十二生肖）
- 呼び方は十干の分類

これらが入り交じったものといえます。

令和4年は 甲子から数えて39番目

十干	+	十二支	=	干支
壬		寅		壬寅
(音読み) じん		いん		じんいん
(訓読み) みずのえ		とら		みずのえとら

【今でも使っている十二支の表現】

- 【方位】子午線（しごせん）
地図の南北線（経線）のことで、東経135°の経線は明石天文科学館を通っています
- 【時刻】正午・午前・午後（しょうご・ごぜん・ごご）
午の刻（11時～13時）の真ん中（12時）を正午、その前後を午前、午後といいます
- 【時刻】草木も眠る 丑三つ時（うしみつとき）
丑の刻（午前1時～3時）を4分割した3番目の時間。現代では午前2時～2時30分をさします

【名前に干支がついた著名なできごと】

- 庚午年籍（こうごのねんじゃく/670年）
天智天皇9年（670）庚午（かのえうま）の年に作られた、全国的規模のものとしては最古の戸籍
- 壬申の乱（じんしんのらん/672年）
天智天皇の死後、その子大友皇子と弟 大海人皇子の皇位継承を巡る内乱
- 戊辰戦争（ぼしんせんそう/1868年）
幕末～明治初の倒幕派と旧幕府軍による戦争。鳥羽伏見の戦い～五稜郭の戦いまで
- 阪神甲子園球場開園（こうしえんきゅうじょう/1924年）
大正13年が甲子の年であったことから名付けられました